

<マニュアル訂正連絡票>

ASP Webjet AutoGUI オプション 使用手引書 V28

[J2K0-5700-01G2]

2019年6月25日発行

修正箇所(章節項): 5.29 富士通 JRE 使用時の注意事項

旧記事

新記事追加

新記事

5.29 富士通 JRE 使用時の注意事項

・インターネットに接続できない環境での Webjet AutoGUI オプション起動について

デフォルトゲートウェイを設定しないことでインターネットに接続できない環境を構築している場合、Webjet AutoGUI オプション起動時に表示されるセキュリティ警告ダイアログの“常に信頼する”を選択すると、ブラウザ画面に“アプレットの初期化中”が表示されたままで Webjet AutoGUI オプションが起動されません。このような場合は、以下の手順で Internet Explorer の設定を行って、保護モードを無効にしてください。

- 1) Internet Explorer の「インターネット オプション」を起動してください。
- 2) 「インターネット オプション」画面の“セキュリティ”タブを選択してください。
- 3) “セキュリティ”タブの“インターネット”ゾーンを選択してください。
- 4) “このゾーンのセキュリティのレベル(L)”領域で、“保護モードを有効にする(Internet Explorer の再起動が必要)(P)”のチェックを外してください。
- 5) “OK”ボタンをクリックして、変更した設定を保存してください。

Internet Explorer を閉じて、Webjet AutoGUI オプションを再起動してください。

・サーバと別セグメントにある端末からのファイル転送について

サーバと別セグメントにある端末から FEXPORT/FIMPORT コマンドを実行する際、サーバ上のファイル転送パラメタファイルを指定したにも関わらず、毎回、送受信パラメタを設定する問い合わせ画面が表示される場合は、以下のどちらかの方法で、プロキシの除外リストに Webjet AutoGUI オプションを利用するホスト名を追加してください。

ー Internet Explorer の設定を行って、プロキシ除外を有効にする方法

- 1) Internet Explorer の「インターネット オプション」を起動してください。
- 2) 「インターネット オプション」画面の“接続”タブを選択してください。
- 3) “接続”タブの“LAN の設定(L)”をクリックしてください。
- 4) 「ローカル エリア ネットワーク(LAN)の設定」画面の“プロキシサーバー”領域で、“LAN にプロキシサーバーを使用する(これらの設定はダイヤルアップまたは VPN 接続には適用されません)(X)”をチェックし、“詳細設定”をクリックしてください。
- 5) 「プロキシの設定」画面の“例外”領域で、“次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない(N)”に、Webjet AutoGUI オプションを利用するホスト名を追加してください。
- 6) “OK”ボタンをクリックして、変更した設定を保存してください。

Internet Explorer を閉じて、Webjet AutoGUI オプションを再起動してください。

ー JBK プラグインの設定ファイル(jbkplugin.properties)に、プロキシの除外リストを記述する方法

1) 以下のパラメタすべてをセットで記述してください。デフォルト状態では、jbkplugin.properties 内のプロキシの設定行はコメント行('#の付いた行)になっています。行の先頭の '#' を取り除いて、プロキシの設定を行ってください。

jbk.plugin.proxy.enable=true (HTTP プロキシを使用する)

jbk.plugin.proxy.http.host=HTTP プロキシのホスト名

jbk.plugin.proxy.http.port=HTTP プロキシのポート番号

jbk.plugin.proxy.override=Webjet AutoGUI オプションを利用するホスト名 (HTTP プロキシを使用しないアドレスまたはホスト名のリスト)

2) 変更した設定を保存し、JBK プラグインの設定ファイル(jbkplugin.properties)を閉じてください。

Internet Explorer を閉じて、Webjet AutoGUI オプションを再起動してください。

修正箇所 (章節項) : 5.30 Oracle JRE 使用時の注意事項

旧記事

新記事追加

新記事

5.30 Oracle JRE 使用時の注意事項

Oracle 社の JRE8 を利用する場合、Web サイトから JRE8u201(Java 8 Update 201)以前のバージョンをダウンロードし、パソコンにインストールしてください。JRE8u201 より新しいバージョンの JRE8 ではアプレットが動作しないため、アップデートは行わないでください。Oracle 社の JRE8 はすでに Oracle 社によるアプレットのサポートが終了しており、Oracle JRE8 に起因するトラブルについては対応できません。

2018年12月25日発行

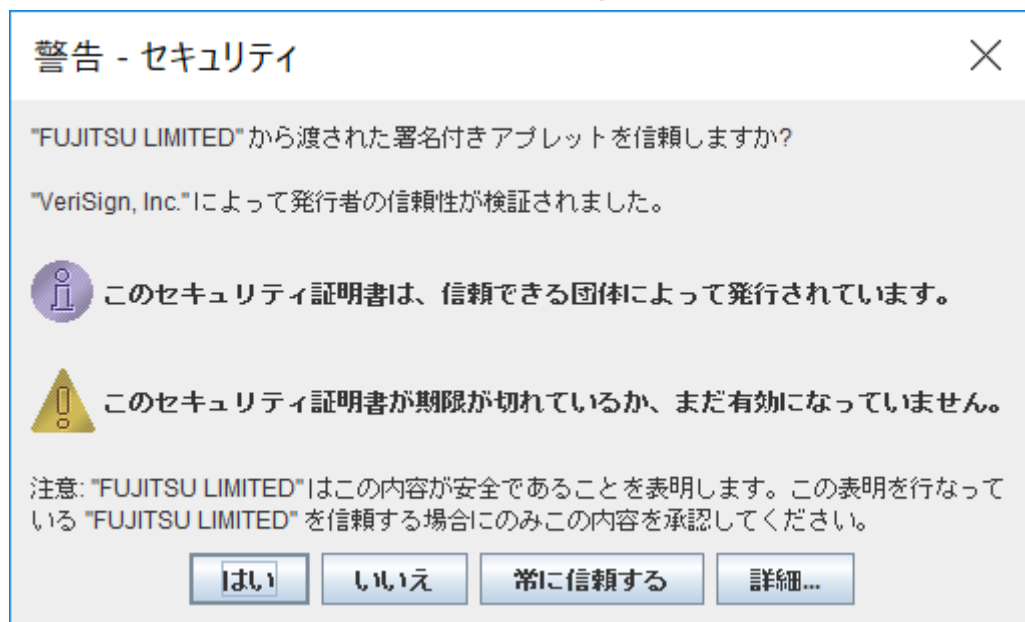
修正箇所 (章節項) : 6.9 アプレット認証について

旧記事

以下に Webjet AutoGUI アプレットの認証ダイアログの例を示します。

新記事

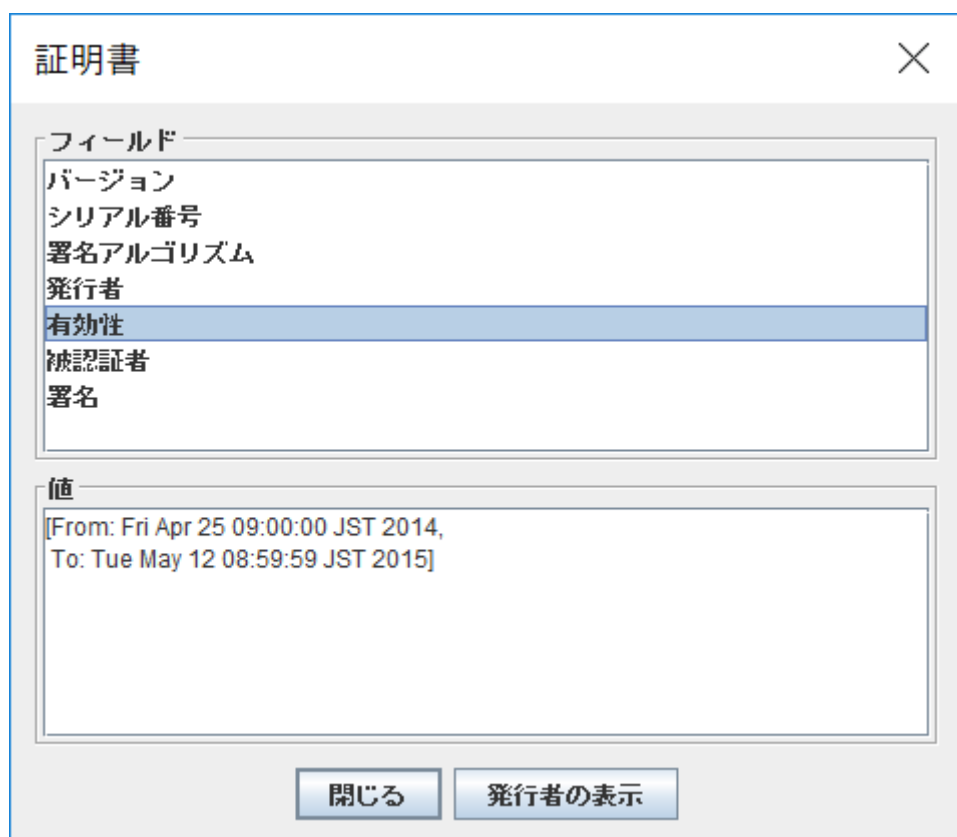
以下に、富士通 JRE を使用する場合の Webjet AutoGUI アプレットの認証ダイアログの例を示します。



(備考)

- ・ “常に信頼する”ボタンを押すことにより、次回以降、Webjet AutoGUI アプレットを実行する時に、認証ダイアログの表示をスキップできます。

- ・ ダイアログに、セキュリティ証明書の期限が切れている旨のメッセージが表示される場合がありますが、期限が切れていても問題はありません。
- ・ 富士通 JRE を使用する場合の Webjet AutoGUI アプレットの有効期限は、以下の方法で確認できます。
 - 1) 認証ダイアログの「詳細...」をクリックします。
 - 2) 詳細情報ダイアログが表示されるので、「有効性」をクリックします。
 - 3) 「有効性」フィールドの値が有効期限になります。



以下に、Oracle JRE を使用する場合の Webjet AutoGUI アプレットの認証ダイアログの例を示します。

修正箇所 (章節項) : 6.25 富士通 JRE と Oracle JRE が共存する端末使用時の注意事項

旧記事

新記事追加

新記事

6.25 富士通 JRE と Oracle JRE が共存する端末使用時の注意事項

富士通 JRE と Oracle JRE の両方がインストールされた端末では、富士通 JRE 用の Webjet 起動用 HTML と Oracle JRE 用の Webjet 起動用 HTML は、ブラウザの新しいウィンドウを開いて、それぞれ別ブラウザで起動してください。

修正箇所 (章節項) : 8.2.3 HTML 文書の編集方法

旧記事

当製品に含まれるサンプルファイルをもとにして、Webjet AutoGUI アプレットを貼りつける HTML 文書を編集します。

HTML 文書の中の Webjet AutoGUI アプレット(エミュレータ画面)を埋め込む位置に、以下のように **APPLET タグ**を記述してください。

新記事

当製品に含まれるサンプルファイルをもとにして、Webjet AutoGUI アプレットを貼りつける HTML 文書を編集します。

富士通 JRE を使用する場合、HTML 文書の中の Webjet AutoGUI アプレット(エミュレータ画面)を埋め込む位置に、以下のように OBJECT タグを記述してください。

```
<OBJECT CLASSID="CLSID:BEA62964-C40B-11D1-AACA-00A0C9216A67"  
    WIDTH="アプレットの横幅"  
    HEIGHT="アプレットの縦幅">  
  
<PARAM NAME="TYPE" VALUE="application/x-JBK-Plugin">  
<PARAM NAME="CODEBASE" VALUE="Webjet AutoGUI アプレットの位置">  
<PARAM NAME="CODE" VALUE="アプレットファイル名">  
<PARAM NAME="ARCHIVE" VALUE="アーカイブ(Jar)ファイル名">  
.....  
</OBJECT>
```

CLASSID:

<OBJECT>タグの CLASSID 属性に、“CLSID:BEA62964-C40B-11D1-AACA-00A0C9216A67”を指定します。この指定により、Internet Explorer が JBK プラグインを自動的に実行するようになります。

WIDTH :

<OBJECT>タグの WIDTH 属性に、端末の WWW ブラウザ上に表示される Webjet AutoGUI アプレットの横幅をピクセル単位で指定します。別ウィンドウ表示の場合は、120 を指定して下さい。ブラウザ内表示の場合は、「[8.2.3.1 アプレットサイズについて](#)」を参照し、指定してください。

HEIGHT:

<OBJECT>タグの HEIGHT 属性に、端末の WWW ブラウザ上に表示される Webjet AutoGUI アプレットの縦幅をピクセル単位で指定します。別ウィンドウ表示の場合は、80 を指定して下さい。ブラウザ内表示の場合は、「[8.2.3.1 アプレットサイズについて](#)」を参照し、指定してください。

パラメタ名, パラメタ値:

<OBJECT>...</OBJECT>タグの間に、<PARAM>タグを記述します。<PARAM>タグには、アプレットを動作させるために必須の情報や、運用形態に合わせて動作をカスタマイズするための情報など、さまざまなパラメタを記述します。アプレットの格納位置やファイル名などの必須パラメタを以下に説明します。

TYPE:

“application/x-JBK-Plugin”を指定します。

CODEBASE:

Webjet AutoGUI アプレットの格納位置を指定します。

環境作成時に指定したディレクトリ配下の Webjet ディレクトリを、[公開ディレクトリ](#)からの相対パスにて指定します。

Webjet AutoGUI アプレット格納位置は、“WebjetApplet2”を指定してください。

例)/var/httpd/htdocs が公開ディレクトリで、その配下の“webjet”を環境作成コマンド(CRTWJETE)で指定した場合

```
<PARAM NAME="CODEBASE" VALUE="/webjet/WebjetApplet2"> (注)  
注)
```

“WebjetApplet2”の部分の名称は固定です。

CODE :

Webjet AutoGUI アプレットの class ファイル名を、以下のように指定します。

```
<PARAM NAME="CODE" VALUE="com.j42.aa.hg.HG.class">
```

ARCHIVE :

Webjet AutoGUI アプレットのアーカイブ(Jar)ファイル名を、以下のように指定します。

<PARAM NAME="ARCHIVE" VALUE="jars/wj66GUI.jar">

上記以外のパラメタの設定方法については、“8.2.4 アプレットパラメタによる Webjet AutoGUI アプレットのチューニング”を参照してください。

Oracle JRE を使用する場合、HTML 文書の中の Webjet AutoGUI アプレット(エミュレータ画面)を埋め込む位置に、以下のように APPLET タグを記述してください。

修正箇所 (章節項) : 8.2.3.2 HTML 文書の設定例

旧記事

以下に Webjet AutoGUI アプレットを貼りつける HTML 文書の設定例を示します。

新記事

以下に、富士通 JRE を使用する場合の Webjet AutoGUI アプレットを貼りつける HTML 文書の設定例を示します。

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Webjet Auto GUI</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<OBJECT CLASSID="CLSID:BEA62964-C40B-11D1-AACA-00A0C9216A67"
        WIDTH="120"
        HEIGHT="80">

<PARAM NAME="TYPE" VALUE="application/x-JBK-Plugin">
<PARAM NAME="CODEBASE" VALUE="/webjet/WebjetApplet2">
<PARAM NAME="CODE" VALUE="com.j42.aa.hg.HG.class">
<PARAM NAME="ARCHIVE" VALUE="jars/wj66GUI.jar">

<PARAM NAME="PORTNO" VALUE="23">
<PARAM NAME="FONTSERVERPORT" VALUE="9998">
<PARAM NAME="RASPORT" VALUE="9997">
<PARAM NAME="WEBJETDIR" VALUE="C:¥Webjet">
<!-- PARAM NAME="HBINTERVAL" VALUE="0"---->
<!-- PARAM NAME="IDLEWATCH" VALUE="300"---->
<PARAM NAME="REQUIRECONFIG" VALUE="yes">
<!-- PARAM NAME="USEBASECOLOR" VALUE="yes"---->
<!-- PARAM NAME="BASECOLOR" VALUE="2"---->
<!-- PARAM NAME="DEVMODE" VALUE="2"---->
<!-- PARAM NAME="CODETYPE" VALUE="e1"---->
<!-- PARAM NAME="JEFTOJIS" VALUE="78"---->
<PARAM NAME="KEYLOCK" VALUE="yes">
<PARAM NAME="CONFIGFILE" VALUE="Sample66GUI.wjt">
<!-- PARAM NAME="AUTOTAB" VALUE="yes"---->
<!-- PARAM NAME="OVERWRITE" VALUE="no"---->
```

```
<!-- PARAM NAME="BLINKTOREVERSE" VALUE="yes"---->
<!-- PARAM NAME="WINDOW" VALUE="no"---->
<!-- PARAM NAME="WINDOWWIDTH" VALUE="750"---->
<!-- PARAM NAME="WINDOWHEIGHT" VALUE="550"---->
<!-- PARAM NAME="MINIMISETOOLBAR" VALUE="yes"---->
<!-- PARAM NAME="HIDETOOLBAR" VALUE="yes"---->
<!-- PARAM NAME="BLOCKCURSOR" VALUE="yes"---->
<!-- PARAM NAME="AUTOFONT" VALUE="yes"---->
<!-- PARAM NAME="FONTSIZE" VALUE="16"---->
<!-- PARAM NAME="CONTROL PANEL" VALUE="AUTOMACRO LOG FILETRANS EXKANJI
ALL"---->
<!-- PARAM NAME="MCRFUNC" VALUE="yes"---->
<!-- PARAM NAME="MCRSERVDIR" VALUE="/macro/macrofile"---->
<!-- PARAM NAME="MCRSERVNAME" VALUE="A.mcr,B.mcr"---->
<!-- PARAM NAME="MCRAUTOEXECSEVNAME" VALUE="autoexec.mcr"---->
<!-- PARAM NAME="MCRAUTOEXECCLIENT" VALUE="yes"---->
<!-- PARAM NAME="DUETSPECIALCODE" VALUE="yes"---->
<!-- PARAM NAME="DUETSERVDIR" VALUE="/duet"---->
<!-- PARAM NAME="RASMODE" VALUE="imm"---->
<!-- PARAM NAME="RASPUT" VALUE="client"---->
<!-- PARAM NAME="RASDATASIZE" VALUE="0"---->
<!-- PARAM NAME="RASFILESIZE" VALUE="524288"---->
<!-- PARAM NAME="RASPREFIX" VALUE="svr01-"---->
</OBJECT>
</BODY>
</HTML>
```

以下に、Oracle JRE を使用する場合の Webjet AutoGUI アプレットを貼りつける HTML 文書の設定例を示します。

修正箇所 (章節項) : 8.2.8.1 HTML のサンプルファイル

以下の内容は、V28 (U18121 適用時以降) に限定される記事です。

旧記事

TopDir/WebjetSamples/Sample66GUIJ6.html

新記事

富士通 JRE 用

TopDir/WebjetSamples/Sample66GUIFJ.html

Oracle JRE 用

TopDir/WebjetSamples/Sample66GUIJ6.html

修正箇所 (章節項) : 8.3 運用管理 WWW サーバからの Webjet AutoGUI オプションのセットアップ

AutoGUI アプレットパラメタ設定

基本設定

以下の内容は, V28 (U18121 適用時以降) に限定される記事です.

旧記事

基本設定

Webjet 環境用ディレクトリの相対パス :

WWW サーバの公開ディレクトリからの Webjet 環境用ディレクトリの相対パスを指定してください.

新記事

基本設定

動作Java種別 : 富士通版 Oracle版

使用する Java 実行環境の種別を選択します.

富士通版を選択すると, Interstage Studio クライアント運用パッケージに添付された JRE8 を使用します. Oracle 版を選択すると, Oracle Corporation の JRE8 を使用します.

Webjet 環境用ディレクトリの相対パス :

WWW サーバの公開ディレクトリからの Webjet 環境用ディレクトリの相対パスを指定してください.

以上